

おか なんとも言えない深海のイメージってよくNHKスペシャルでやっているじゃないですか、ダイオウイカとか。本当にこんな巨大生物とかおいたらね。いきなりそれが注目されて、どんなきっかけでどうなるか分かりませんから。

さあ皆さんですね、ここまでで作品っていうのは、どんなものか分かっていただけたと思うのでね、自分は何がターニングポイントでこうなったのかということをですね、スケッチブックに書いていただいていますので、それを皆さんに見せていただきたいと思います。どうぞお書き下さい。書いてるものならそのまま置いて伏せていただいて結構です。

まあ私おかげんのターニングポイントというのは、やっぱりあの「4時ですよ～だ」という番組。ダウンタウンが大阪におった頃に、月曜日から金曜日の夕方にやってたんですけども。それに声掛けでいただいたというのが、多分私はターニングポイントかなと感じています。ダウンタウンと僕と三人でラジオをやっていたんですけども。そのときにですね、やっぱりいろんなネタの勉強になりました。お互いがこのネタうちできへんからダウンタウンでやる?とか、ダウンタウンがこれうちできへんからけんちゅうでやる?っていうような交換をしてたりとか。これで自分自身ちょっと変わっていたかなというような、ターニングポイントがあります。

それでは皆さん書いていただけたでしょうかね。それではまず鈴木さんからターニングポイントを見せていただけますか。消しゴム?

鈴木 えっとなんかおもしろ消しゴムっていう、百均とかで売っている、ケーキとか動物とかいろんなかたちが、あれって分解できるじゃないですか。あれの分解方法がものすごく意外で面白くて、小さい頃から好きやったんですけど、それを改めて見て分解をテーマにしようという風に思いました。

おか まさか消しゴムからあの作品が生まれてるんですか? 鈴木 まあ理由は何個があるんですけど、だいぶ大きいウエイトを占めているのが、おもしろ消しゴムです。

おか 絶対皆さん、これから文房具屋さん行って消しゴムを見にいくと思いますよ。そのおもしろ消しゴム。何個ぐらい持っているんですか?

鈴木 まあ百個ぐらい。

おか すげー、百個消しゴム持ってるんですか。

鈴木 何個持ってきてます。

おか あとで見せていただきたい。

鈴木 結構コレクターの方でいらっしゃるんですけど、レアな消しゴムを手に入れたりとか、割とそういうことをインスタに上げてる人とかがいらっしゃって。限定商品みたいなとか。そういうことじゃないんだよっていう風に私は思って。どういう風に分解できるかが、あの消しゴムの一番の醍醐味だなって。

おか 消しゴムによって、その分解のされ方が違うっていうことですか?

鈴木 そうんですよ。一見すごいかわいい虎とか牛とか見た目つるんとしててすごいかわいいんですけど、なんか分解した様子がすごい気持ち悪い。

おか なるほどね。例えばものすごい勇ましい虎とか、ぐわーっと口開けてるのも分解していったらなんのこっちゃわかりませんからね。かたち的に言ったらね。だいたい何バーツくらいになります?

鈴木 色で一バーツくらいです。首とか取れたりするんですけど、虎やったら、黒い部分と黄色い部分の頭と体があるので四バーツくらいですかね。

おか それを見たことが今の作品に繋がっていってることですか?

鈴木 そうですね。

おか それまでは虎であるとか、そういう生物。なんでもいいますけど、静物とかの花の版画などを制作されたということですか?

鈴木 それまでお風呂とか、トイレとか水回りが好きで水回りの作品を作ってたんです。

おか 水回りの次が消しゴム?

鈴木 はい。

おか それは風呂が好きとか、洗濯が好きとかっていうことなんですか?

鈴木 そういうことではなくて、家の中って普通乾いてるじゃないですか?けど水回りだけ湿ってて。普通配管とかって床の中とか壁の中に入ってる、実は水が近くを通っているのに見えないけど、蛇口をひねって排水溝に入る瞬間に水が室内に漏出する瞬間があると思って。みんな全然当たり前と思っているけど、よく考えたらこれおかしいぞって思って。

おか その水が見えるというのがおかしいと?

鈴木 今は家の中に水が出てくるってすごい変やなって

思って。昔は井戸とかに汲みに行かないといけなかったはずじゃないですか?

おか 考えたら水って確かに蛇口からやったら数十センチのところからすぐに下水いきますもんね。見えるところ言うたら一瞬やわ。俺も今それ気がついたわ。

鈴木 お風呂とか洗面台って受け皿になっているところで形状がすごい面白いと思ってて。

おか 消しゴムがターニングポイントか。ありがとうございます。それでは高畠さんのターニングポイント教えてもらっていいですか?グリーンマンション?

高畠 グリーンマンションっていうマンションが私が初めて下宿したマンションなんです。

おか グリーンマンションってどんなマンションなんですか?

高畠 普通の古いアパートです。

おか グリーンではないんですか?

高畠 グリーンではないんですけど、グリーンマンションっていう名前のアパートに住んでました。

おか どういう造りなんですか?

高畠 二階建てで、文化住宅みたいな古いアパートで隣の隣におばちゃんが住んでるんですけど、見た感じ怖いおばちゃんで。急に私の部屋にピンポン押してきて、行ったらやばいんちゃうかって思ったんですけど、行っちゃったんですよ。

おか 来て欲しいって言われて行ったの?そのひとの家に。

高畠 ほんまにテレビがつかんなくてて困ってただけやったんで、なんでなんかなって思って電源を押したら主電源が切れて、解決したんですけど。最後にミルクティーをくれました。

おか そのお母さんからしたら、主電源をつけてくれたから「あんたええ子やな」ってミルクティーをご馳走してくれはった訳や。それが作品にどう繋がっていくねんやろ?グリーンマンションでおばちゃんがおって、ミルクティーをご馳走になった。ほんで?

高畠 おばちゃん関係なくて。

おか ないんかいな。

高畠 友達とルームシェアして、その子と話したり遊んだりするようになってから、作品も変わっていったというか、版画の作品じゃなくもっと違うことしたいな思うようになって。グリーンマンションに住まなかつたら今の自分はなかったなど。

おか その友達には刺激を受けたというか、そういう人たちということですか?

高畠 刺激もありますし、一緒に遊びに行ったりとか、話したりしていくうちに、自分の作品が面白くないなって思い始めて変わりました。

おか さっき言ってたように、四年生という時にこういうかたちになっていました。つまり、最後の一学年でっていう話をされてたじゃないですか。それがようするに友達がずっとそのグリーンマンションに来て、急にやっぱリボンとこう一瞬自分の中でも「あっ」というようなことがあったっていうことですか。

高畠 徐々に話したりしていく内にあって感じですね。

おか ほんでこれをちょっとこんなことをやってみようかという。その友達はちなみに芸術系の大学に行ってる人なんですか。

高畠 同じ大学に通ってる子です。

おか その人はこの作品を見てなんか言いました?

高畠 なんか言ったかな?いや、あまり覚えてないです。おか でもそこから影響されたって、本人はそんなこと分かってないでしょ?

高畠 はい。

おか でもその人がいなかつたらこんな作品にならなかった。

高畠 多分、なっていなかつたかなと思います。

おか 今はグリーンマンションは?

高畠 今はもう住んでないです。

おか 次の入ってきた学生さんがひょっとしたら同じ体験して、ターニングポイントになって何年か後にここに選ばれてまたグリーンマンションって書く人が出てくるかも分からへんもんね。しかし面白いな、ありがとうございました。

さあ、范さんのターニングポイントはなんでしょうか。

中学二年生の時のサマーキャンプ?

范 作品のターニングポイントはあまりないかもしれない、これは人生のターニングポイント。

おか その中学二年生の時のサマーキャンプってなんですか?

范 中学二年生のときにイギリスに三週間のサマーキャンプに行きました。

おか イギリスはどこですか?

范 結構田舎の方、月曜日から金曜日までは半日授業を

して、半日遊びで週末はロンドンとかオックスフォードとかそういうところに行って。月曜日から金曜日授業をするときすごく感じたのは、こういう勉強の仕方もあります。みんなと一緒にじゃなくて、自分の分からないところで聞いて、みんなと話しながらそういう勉強のやり方もあるって。そこからすごく海外に行きたいアイデアが生まれて、高校一年生のときに一年間掛かってお母さんを脱得してアメリカに行きました。

おか そのサマーキャンプ、もちろん中国に居て、イギリスの方に行って三週間で海外っていいなとか、いろんなことが何かめぐってきたっていうことですか？

范 はい、昔は勉強がすごく苦手で、覚えるのがすごく苦手で、例えばテストする時は必ず胃が本当に痛くなる。中国のセンター試験は一回しかチャンスがない。それを考えたらもう死にそうになって絶対ここにいると未来がないと思ってて。

おか すごい行動派やね、考えたら。

范 すごく逃げたかった。

おか さっきからずっと聞いていると、すごく逃げたいイメージがありますよね。

范 そうですね、小さいときから年齢のすごく近いことと一緒に育ってきたんですけど、彼女は全部私よりもできます。ずっと比べられて、私何もできないと思ってたんです。自信がなくて私は存在する意味あるのかなと思ってた。

おか それはいくつのときですか？

范 結構小さいときから、小学生のとき。

おか 小学生のときに私存在して意味あるのかなって、普通考えますか。

范 何もできないから。

おか グリーンマンションで考えないでしょ、そんなこと。

高畠 考えなかったです。

おか 普通、そんなことみんな考るんですか中国人って？

范 いや、だから私はちょっと違うのかなと思ってて。

おか すごいね、せやけど。小学校のときなんか腹減ったしか考えてなかったな。イギリスでなんかお土産か何か買ってきたんですけど、楽しい思い出とかありましたんですか？

范 授業するときに、やっぱり楽しい授業をするのが初めて。授業をするとき、毎回授業するのが気持ちがそんなによくなくて。呼ばれるときも答えなくて、結構私たぶんこのままじゃ何もできなくて。で、イギリスに行って授

業の中、みんな普通に話してて分からぬところがあつて普通に聞いても何も言われないです。学校で分からぬことがあつたら、先生とかお母さんとかお父さんから言われるじゃないですか。なんであなたしっかり勉強してないって怒られるじゃないですか。そういうことがあるから、海外の勉強の仕方が私には向いているのかなと思って。

おか これサマーキャンプといつても、キャンプをする訳ではないんですね。

范 違います。中国の呼び方なんで、日本ではどういう呼び方をするんですか。

おか 僕らでいうユースホステルっていうところがあるんですけど。だいたい学生時代とか小学生のときとかユースホステルとかそういうところに泊まつたりとか、国民宿舎とか言われるところに行ったりするんですけど、そういうところに泊まっていたということですか？

范 実はホストファミリーがあって、普通のイギリス人の家に泊まつて、普通に学校に通うように三週間ホームステイしていました。

おか ホームステイしてたんですか。ということはイギリス人やから英語ですよね。

范 英語です、私のときは英語本当に何もできなくて。面白い話があります、私エビアレルギーなんです。食べたら喉の中が痒くなつて、死にそうになる。

おか カーッとする訳ね。

范 はい、ホームステイ先の家に午後に着いてチャーハンがありました。食べないかと言われて、食べたらエビが入っていました。

おか ホームステイ先の人が美味しいものを食べさせてあげようと思って、作ってくれた訳や。

范 実は私はお酢を飲んだら良くなります。

おか お酢を飲んだら治るの？

范 治ります。おかしい話をしていますが本当に治ります。

おか それアレルギー違うんちゃうかな。

范 アレルギーです。病院でテストをしました。

おか ほんと喉が痒くなつたわけや。

范 あのときお酢の英語知らなくて、二階に泊まつてたんですけど、二階の荷物の中に電子辞典探さないといけない。死にそうになつてるんですけど、探さないといけなくて。お酢をくださいで電子辞典で調べて、これくださいって言って、良くなったんですけど。あれはすごく記憶に残りました。お酢さえ喋れなくてイギリスに行きました。

おか アレルギーってそんなんで治るもんなんですか？

范 私がたぶんおかしいのかもしれませんね。

おか 海外に行ったことによって今の現在がある。なんというか独立性があるというか自己主張がしっかりしているというか。周りの人もみんなそんな感じではなかつたんでしょう？

范 そうですね。私もお父さんお母さんの言う通りにする人の方が多いですね。私結構小さい時から反発してるかもしれない。

おか そういう方から見て日本人ってどうですか？みんな割とすぐに頭下げたりとか、あまり主張しないとかっていう海外の人から見たらそんなんよう言われるけど、中国の人がそういう形で日本人見たらどうなんですか？中国と日本やつたらどっちが合いますか？

范 私今は日本に住んでいるので、日本は便利。なんでも手に入るから。日本、大阪はちょっと違うかもしれない。大阪来る前に東京に住んでいて。ちょっと冷たい。人と人の距離が。

おか 冷たい？

范 日本語は曖昧じゃないですか。「行けたら行く」とか、「少なくない？」とか。

おか 「今度こんなパーティーあるねんけど」「行けたら行くわ」っていうことですか？

范 少なくないっていう言い方もあります。

おか 「これちょっと少なくない？」とか。

范 そうです。少なく、ない？私結構こういう曖昧なものが苦手です。

おか どっかかというとはっきりしてほしい？

范 大阪の人と合うと思う。

おか 大阪ははっきり言われた？

范 東京より、話してるとときは意見をはっきり言ってくれる。

おか 大阪に来た時に自分はこちらの方が合うと思った訳ですね。

范 東京は人が多い。朝電車乗つてると死にそうになつた。

おか そういう意味ではサマーキャンプっていうところで海外の経験をしてから東京も経験して大阪も経験して、今は大阪で活動されているということですね。ありがとうございます。肥後さんは何なんでしょう。楽しみですね。どうぞ。「PD」？

肥後 先ほどスライドで版画に居たと言ったんですけど、大学に入った時は芸術学部じゃなくてデザイン学部に居て。

おか デザイン学部に居たん？

肥後 そうなんです。デザインに三年までいたので年数的にはデザインの方に長く居て。

おか プロダクトデザインって言うんですよね。

肥後 そうですね。プロダクトデザインの、正確に言うとライフクリエイションコース、インテリアとか建築とかそっちの方に居たんです。

おか そっち行ってたんですか。

肥後 そうなんです。それで店舗の図面を描いたりとか、樹脂でジョウロをつくりたりとか、金属叩いたりとか、最後の方は桶とかつくりました。いろいろデザインに関する事をやってて。

おか プロダクトデザインやっていたとは全然分からなかったです。そういうものをずっとやっていてなぜ次に版画を行つたんですか？

肥後 カリキュラムの中でデザインの商品のプランディング、企業と連携して何かをつくるということはよくやるんですけど、カリキュラムの中にちょっとデザイン的な考えではない、頭を使うような授業がありまして、その中でいろいろ技術に触れる機会があって。それまで芸術学部は何をやっているのかよく分からなくて、正直あまり関心がなかったんですけど、そのPDの時の授業がきっかけで美術らしいものがあると。よく分からないことをやっているところがあると。最初ぱっと見ではよく分からないし、無駄なものを使ってたりするし、よく分からないけど、なんか面白いなと思い始めて、そこがきっかけで徐々に展覧会を見に行つたりとか。

おか プロダクトデザインの人って展覧会とかあまり見に行かないですか？

肥後 基本的に僕はあまり見に行ってなかったです。例えばプロダクトデザインでも展示はあると思うんですけど、頻繁にコマーシャルギャラリーに行くとかっていうのは、あんまりなかったですね。行く機会もなかったので。それをきっかけに行ってみようかなと思つたりして、行つたり、作家さんの手伝いをしてる内にだんだんそっちの方面に足をつっこんで行き、結果的に転学しようと思つて今この場所に居ます。

おか かっこいいですね、ということは、もし版画科の方に入ついたら、抜け出していた可能性もありますね。